

<p>I. 今日の主の行動の方向は、花婿の配偶者としての花嫁を用意して、贖う神と彼の贖われた人を永遠に結婚させることです。 ヨハネ 3:29 花嫁を持つ者は花婿である。花婿の友は立って花婿の声を聞き、その声のゆえに喜び歓喜する。こうして、わたしはこの喜びに満たされている。花嫁を持つ者は花婿である。花婿の友は立って花婿の声を聞き、その声のゆえに喜び歓喜する。… 啓 19:7 私たちは喜び歓喜し、彼に栄光を帰そう。小羊の婚姻の時が来て、彼の妻は用意を整えたからである。8 彼女は輝く清い細糸の亜麻布の衣を着ることを許された。その細糸の亜麻布の衣は、聖徒たちの義である。9 御使いは私に言った、「小羊の婚宴に招かれている者は幸いである、と書き記しなさい」。彼はまた私に言った、「これらは神の真実な言である」。21:2 私はまた聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように整えられて、天から出て神から下って来るのを見た。</p>	
<p>II. 小羊の婚姻は、神の新約エコノミーの完成の結果です。神の新約エコノミーは、キリストの法理的な贖いを通して、彼の神聖な命における有機的な救いによって、キリストのために花嫁、すなわち召会を得ることです。 ローマ 5:10 私たちが敵であった時に、神の御子の死を通して神に和解させられたからには、和解させられている今、さらにいっそう彼の命の中で救われるからです。</p>	
<p>III. 主の回復は、すべての勝利者から成る花嫁を用意するためです： ローマ 8:37 しかし、これらすべての事柄において、私たちが愛してくださった方を通して、私たちは勝ち得て余りがあります。</p>	<p>A. すべての勝利者は、キリストの花嫁として千年間、その開始と新鮮な段階における新エルサレムとなります。 B. 最終的に、すべての信者たちは勝利者たちに加わって、新エルサレムを満ち満ちた方法で究極的に完成し、完全にし、新天新地においてキリストの妻となって、永遠に至ります。</p>
<p>IV. 花嫁の用意は、勝利者たちの命における円熟にかかっています： エペソ 4:13 ついに私たちすべては、その信仰の一に、また神の御子を知る全き知識の一に到達し、一人の完全に成長した人に到達し、キリストの豊満の身の丈の度量にまで到達するのです。</p>	<p>A. キリストを愛する者は神聖な命の円熟において、シユラムの女となります。これは、彼女がキリストの複製また複写となって、彼と結婚するのにふさわしくなっていることを表徴しています。啓 21:9 また、七つの最後の災害が満ちた七つの鉢を持った七人の御使いの一人が来て、私に語って言った、「ここに来なさい。あなたに小羊の妻である花嫁を見せよう」。 B. 新約において「円熟」という言葉は、信者たちが神の命において完全に成長し、完全にされていることを指すのに用いられています。これは、私たちが神聖な命において成長し円熟して、完全に至る必要があることを示しています。 C. 私たちは成長し続けて、ついには神聖な命において円熟して、完全に成長した人となり、キリストの豊満の身の丈の度量に到達する必要があります。 D. 私たちは使徒パウロから学んで、キリストの命において成長し円熟することを追い求める必要があります。コロサイ 1:28 私たちはこのキリストを告げ知らせ、知恵を尽くしてすべての人を戒め、すべての人を教えています。それは私たちが、キリストの中で完全に成長したすべての人を、ささげるためです。 E. 円熟した信者は、からだを認識し、からだを顧慮し、からだを尊び、からだの感覚を持ち、からだを中心とします。</p>
<p>V. 花嫁を構成する勝利者は、分離した個人ではなく、団体の花嫁です。花嫁のこの面のためには、建造が必要です：</p>	<p>A. 勝利者は、命において円熟しているだけでなく、また共に建造されて、一人の花嫁となっています。 B. 聖書の中心的で神聖な思想とは、神が神聖な建造(彼ご自身と人性とのミングリング)を求めているということであり、また神が生ける構成体(彼ご自身によって贖われ、彼ご自身とミングリングされた生ける人から成る生ける構成体)を求めているということです。ヨハネ 14:20 その日には、私が私の父の中におり、あなたがたが私の中におり、私があなたがたの中にいることを、あなたがたは知るであろう。 C. 神の建造の原則は、神が彼ご自身を人の中へと建造し、人を彼ご自身の中へと建造するということです。神が人とミングリングすることは、神が彼ご自身を人の中へと建造することです。人が神とミングリングすることは、人が神の中へと建造されることです。 D. 神の建造は、三一の神の団体の表現です。 ヨハネ 17:22 あなたが私に与えてくださった栄光を、私は彼らに与えました。それは、私たちが一であるように、彼らも一となるためです。 E. 信者仲間たちと共に建造されることは、神聖な属性の一つ(神聖な一)にしたがった、主を忠信に追い求める者たちに対する、主の最上で最高の要求です。</p>

<p>VI. 召会は、花嫁また花婿の配偶者として、美しさを必要とします： 雅 1:15 「見よ、わが愛する者よ、あなたは美しい！見よ、あなたは美しい！あなたの目ははとのようだ」。4:7 「わが愛する者よ、あなたのすべては美しく、あなたには何の傷もない。</p>	<p>A. 「あなたの目は美しさの中にある王を見て」、「王はあなたの美しさを慕い求めるでしょう」。 イザヤ 33:17 あなたの目は美しさの中にある王を見て、…</p> <p>B. キリストのからだの団体の構成の中には、多くの美しさ、すばらしさ、美徳があります。</p> <p>C. 私たちクリスチャンが現す美徳は、神聖な属性における栄光と美しさの現れであるべきです。クリスチャンは神性を要素また実際として持っています。彼らから、神聖な栄光と美しさは人の美徳を通して表現されます。 ピリピ 1:20 そこで、私の切なる期待と希望は、私がどんな事にも恥じることなく、かえっていつものように、あらゆる事で大胆になって、生きるにも死ぬにも、今なおキリストが、私の体において大きく表現されることです。21 なぜなら、私にとって生きることはキリストであり、死ぬことは益であるからです。</p> <p>D. 花嫁の美しさは、花嫁が花婿としてのキリストにささげられるためです：</p> <table border="1" data-bbox="757 363 2190 491"> <tr> <td data-bbox="757 363 1205 403">1. 花嫁の美しさは、召会の中へと造り込まれた後に召会を通して表現されるキリストから来ます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="757 403 1205 443">2. 私たちの唯一の美しさは、キリストが私たちの内側から輝き出ることです。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="757 443 1205 491">3. キリストが私たちの中で評価するのは、彼ご自身の表現です。</td> </tr> </table>	1. 花嫁の美しさは、召会の中へと造り込まれた後に召会を通して表現されるキリストから来ます。	2. 私たちの唯一の美しさは、キリストが私たちの内側から輝き出ることです。	3. キリストが私たちの中で評価するのは、彼ご自身の表現です。
1. 花嫁の美しさは、召会の中へと造り込まれた後に召会を通して表現されるキリストから来ます。				
2. 私たちの唯一の美しさは、キリストが私たちの内側から輝き出ることです。				
3. キリストが私たちの中で評価するのは、彼ご自身の表現です。				
<p>VII. 啓示録第 19 章 11 節から 21 節によれば、キリストは戦う将軍として、彼の軍隊である彼の花嫁(勝利を得た信者たち)と共に来て、反キリストと彼の下の王たちと彼らの軍隊に対して、ハルマゲドンで戦います：</p> <p style="text-align: center;"><u>ハルマゲドンの戦い(啓示録 19:11-21):</u></p> <p>a. <u>キリストは来て大いなる酒ぶねを踏む(11-16):</u> 啓 19:11 また私は、天が開かれるのを見た。すると見よ、白い馬と、それに座している「忠信」と「真実」と呼ばれる方がおられた。彼は義の中で裁き、また戦う。12 彼の目は火の炎であり、彼の頭には多くの王冠があった。彼には、ご自身のほかだれも知らない名が書かれている。13 彼は血に浸された衣をまとっている。また、彼の名は神の言と呼ばれる。14 そして天にある軍勢が白い馬に乗り、白くて清い細糸の亜麻布を着て彼に従った。15 彼の口からは鋭い剣が突き出ており、彼はそれをもって諸国民を打つのである。彼は鉄の杖をもって彼らを牧養する。彼は全能者である神の激怒の憤りの酒ぶねを踏む。16 彼はその衣にも、もにも、「王の王、主の主」と書き記された名を帯びておられる。</p> <p>b. <u>大晚餐(17-18):</u> 17 私はまた、一人の御使いが太陽の中に立っているのを見た。彼は大声で叫んで、中天を飛ぶすべての鳥に言った、「ここに来たれ。神の大晚餐に集まれ。18 王たちの肉、隊長たちの肉、権力者たちの肉、馬とそれに乗る者たちの肉、自由人と奴隷、また小さな者と大きな者の、すべての人の肉を食べるためである」。</p> <p>c. <u>反キリストと偽預言者の敗北と滅亡(19-21):</u> 19 私はまた、獣と地の王たちと彼らの軍勢とが集結して、馬に乗る方と彼の軍勢と戦うのを見た。20 そして獣は捕らえられた。また彼の前でしるしを行ない、それによって、獣の印を受けた者や彼の像を拝んだ者を欺いた偽預言者も、捕らえられた。この二人は生きたまま、硫黄で燃える火の池の中へと投げ込まれた。21 残りの者たちは、馬に乗る方の口から突き出た剣で殺された。そしてすべての鳥は、彼らの肉で満腹した。</p>	<p>A. キリストが彼の軍隊と共に来て、反キリストと彼の軍隊と戦う時、彼は人の子として来ます。彼は人の子として、彼にふさわしく彼を完全にする配偶者、彼の花嫁を必要とします。</p> <table border="1" data-bbox="1205 611 2190 1137"> <tr> <td data-bbox="1205 611 1451 1137" rowspan="2"> <p>B. キリストは戻って来る前に、まず婚礼を持ち、彼の勝利者を彼ご自身へ結合して一体とならせます：</p> </td> <td data-bbox="1451 611 2190 1058"> <p>1. キリストは、長年にわたり神の敵に対して戦ってきた人と結婚します。 エペソ 6:11 神のすべての武具を身に着けなさい。悪魔の策略に敵対して立つことができるためです。12 というのは、私たちの格闘は血肉に敵対するものではなく、支配者たちに、権威者たちに、この暗やみの世の主権者たちに、天上にいるあの悪の霊の勢力に、敵対するものだからです。13 こういうわけで、神のすべての武具を取りなさい。それは、あなたがたが邪悪な日にあって抵抗することができ、またすべてのことをやり抜いた後も、なお立つことができるためです。</p> <p>2. 啓示録第 19 章においてキリストは、すでに邪悪な者に勝利を得ている勝利者と結婚します。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1451 1058 2190 1137"> <p>C. 婚礼の後、キリストは彼の花嫁と共に来て、反キリストを滅ぼします。</p> </td> </tr> </table> <p>D. 婚宴の礼服は、私たちの主観的な義として私たちから生かし出されたキリストです。これにより、私たちは婚宴に参加する資格を持つだけでなく、また軍隊に加わる資格をも持って、究極の戦いにおいて、すなわちハルマゲドンの戦いにおいて、キリストと共に反キリストと戦います。 啓示録 19:8 彼女は輝く清い細糸の亜麻布の衣を着ることを許された。その細糸の亜麻布の衣は、聖徒たちの義である」。</p>	<p>B. キリストは戻って来る前に、まず婚礼を持ち、彼の勝利者を彼ご自身へ結合して一体とならせます：</p>	<p>1. キリストは、長年にわたり神の敵に対して戦ってきた人と結婚します。 エペソ 6:11 神のすべての武具を身に着けなさい。悪魔の策略に敵対して立つことができるためです。12 というのは、私たちの格闘は血肉に敵対するものではなく、支配者たちに、権威者たちに、この暗やみの世の主権者たちに、天上にいるあの悪の霊の勢力に、敵対するものだからです。13 こういうわけで、神のすべての武具を取りなさい。それは、あなたがたが邪悪な日にあって抵抗することができ、またすべてのことをやり抜いた後も、なお立つことができるためです。</p> <p>2. 啓示録第 19 章においてキリストは、すでに邪悪な者に勝利を得ている勝利者と結婚します。</p>	<p>C. 婚礼の後、キリストは彼の花嫁と共に来て、反キリストを滅ぼします。</p>
<p>B. キリストは戻って来る前に、まず婚礼を持ち、彼の勝利者を彼ご自身へ結合して一体とならせます：</p>	<p>1. キリストは、長年にわたり神の敵に対して戦ってきた人と結婚します。 エペソ 6:11 神のすべての武具を身に着けなさい。悪魔の策略に敵対して立つことができるためです。12 というのは、私たちの格闘は血肉に敵対するものではなく、支配者たちに、権威者たちに、この暗やみの世の主権者たちに、天上にいるあの悪の霊の勢力に、敵対するものだからです。13 こういうわけで、神のすべての武具を取りなさい。それは、あなたがたが邪悪な日にあって抵抗することができ、またすべてのことをやり抜いた後も、なお立つことができるためです。</p> <p>2. 啓示録第 19 章においてキリストは、すでに邪悪な者に勝利を得ている勝利者と結婚します。</p>			
	<p>C. 婚礼の後、キリストは彼の花嫁と共に来て、反キリストを滅ぼします。</p>			

経験:

①神が欲しているのは、新エルサレムです。新エルサレムは、勝利者が何であるかの総合計です。最終的に、すべての勝利者は、キリストの花嫁として千年間、その開始と新鮮な段階における新エルサレムとなります。この千年は、一日と見なされ、婚宴の日です。これはキリストの花嫁としての新エルサレムの開始と新鮮な段階となります。勝利者はまた、千年王国における神のその時のパラダイスとしての、新エルサレムとなるでしょう。この花嫁は神のパラダイスとなります。三つのもの、すなわち花嫁、都、神のパラダイスは一です。最終的に、新エルサレムは満ち満ちた方法において究極的に完成され、完全になり、新天新地において神の幕屋またキリストの妻となって、永遠に至ります。千年王国において、新エルサレムは勝利者だけから構成されます。勝利者以外に、多くの円熟していない聖徒がいますが、千年王国の後、すべての信者は円熟します。主にはすべての信者を円熟させる道があります。もし私たちがこの時代に円熟しないなら、次の時代に円熟するでしょう。しかしながら、次の時代に円熟する過程は、非常に厳しいでしょう。最終的に、すべての信者は勝利者に加わって、千年王国にあったものよりも大きい新エルサレムとなります。それは、新エルサレムを満ち満ちた方法で究極的に完成し、完全にし、新天新地において神の幕屋またキリストの妻となって、永遠に至ります。

ビジネス・ライフ編: 重要な人間関係は、先ず、夫婦の関係、それから親子関係、そして会社における上司との関係です。ビジネス・ライフにおいて、上司に正しく仕えることを学ぶ必要があります。エペソ 6 章でパウロは次のように言っています、「6 人にへつらう上辺だけの仕方ではなく、キリストの奴隷として、心から神のみこころを行ない、7 人ではなく、主に仕えるように、奴隷として善意をもって仕えなさい。8 あなたがたが知っているように、どんな良い事を行なっても、奴隷であれ自由人であれ、それぞれは主からその報いを受けるのです(エペソ 6:6-8)」。

召会の奉仕の中で、天然の意見を主張する人は主イエスにとって役に立ちません。会社においてもその原則は同じです。上司が決定する前に議論することはいいのですが、一旦上司が決定すると、その方針に従順に従う必要があります。パウロは奴隷が主人に仕えることにおいて、主イエスに仕えるようにしなさい、と言っています。したがって上司に仕えることにおいて、あなたはキリストを経験し、キリストを表現すべきです。もしあなたがこのように実行していないなら、悔い改めて今日から実行してください。そのことが難しいと考えられても、重要なことは、常に「今日は明日よりは容易である」ということです。今日の造り変えがいくら困難であっても、千年期における暗闇の訓練に比べるとはるかに容易であるのと同じです。アーメン！

②何千万もの多くのクリスチャンがこの地上にいます。どのようにしてそのような多くの人々が神のただ一つの表現となることができるのでしょうか？ 答えは神の建造にあります！ 私たちは建造を持たなければなりません。私にはこの事柄に関して私の心にあることを表現する言葉がありません。私に対して昼も夜も継続的に開かれたビジョンがあります。第一に、消極面で、どの単独の個人も神を完全な方法で表現することは不可能です。次に、積極面で、神の正しい、十分な表現は、組み合わされた団体の表現でなければなりません。覚えておいてください。神の願いと定められた御旨は、神がこの地上で人を通して表現され、代行されることです。しかしこれは、私たちが相互に組み合わされ、共に建造された時はじめて可能となります。

在職青年召会生活編: 神のゴールはキリストのからだを建造すること、キリストの団体の花嫁を準備することです。神があなたを救ったのは、多くの個々の主を愛する人を生み出すことではなく、団体の花嫁を建造することです。召会生活を送っていても神の目標とは異なる個人的な目標を密かに持っているなら、主の祝福を失ってしまいます。どの個人も完全に神を表現することはできず、キリストを満足させる花嫁となることもできません。未婚の在職青年は配偶者を得て、結婚生活を建造する必要があります。しかし一家族はキリストのからだではないので、導いている兄弟姉妹に開き、助けを受けて、キリストのからだの交わりの中で前進してください。

エペソ 4 章でパウロは次のように言っています、「11 そして彼ご自身は、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧する者また教える者として与えられました。12 それは、聖徒たちを成就して、その務めの働きへと、キリストのからだの建造へと至らせるためであり、15 むしろ、愛の中で真実を固く保って、私たちはすべての事で、彼すなわちかしらであるキリストの中へと成長し込むのです。16 この方から、からだ全体は、その豊富な供給のあらゆる節々を通して、またそれぞれの部分の度量に応じた活動を通して、結合され組み合わせられ、からだを成長させ、愛の中でそれ自身を建て上げるに至るのです(エペソ 4:11-12、15-16)」。あなたを成就するのは賜物のある肢体、からだの節々です。あなたは必ず召会の中の前進している肢体につながり、彼らに開き、結婚生活、ビジネス・ライフ、召会生活の中の実際的な様々な問題について交わってください。このような交わりを通して、あなたは成就されることができます。あなたはこの交わりを通して、建造に合致しない感覚、個人主義、特異性を対処することができます。あなたが一旦、建造の路線で前進するなら、あなたの召会生活は主の行動の方向性と合致するので、あなたは大いに祝福され、成長することができます。ハレルヤ！

606 召会 — その建造

1. 自己、てん然を捨て、けんぞうされて、
ともにみやとなり、えいこう満たす。
たかぶり、たんどく、とく異せいを捨て、
主の権威にふくし、主の住まいとなる。
2. せい長し、変えられ、供給し、建造され、
機のを果たして、ひとをしょう就す。
自分にぞくすもの、たかくひょう価せず、
すべてかたよらず、きん衡をたもつ。
3. かしらにつながり、主の豊富、享受す；
かみ増しくわわり、円じゅくにいたる。
主のあいを知って、かん全にせい長し、
キリストの豊満の身のたけとなる。
4. み住まい、からだに、けんぞうされて、
主のうつわとなり、えい光あらわす。
はなよめ、みやこは、いまや地上にあり、
なが栄こう照らし、ひとにかがやく。

606 召会—建造

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 救我脱离自己、天然、 2. 生命供应、活水流通、 3. 持定元首、联络供应、 4. 作神居所、作你身体、 | <p>主阿，我愿被建造，
为着充满你荣耀。
脱离骄傲与单独；
让你有家可居住。
长进、变化又配搭；
成全别人，不践踏。
所是、所有并所能，
接受一切的平衡。
享受基督的丰富；
因神增加得成熟，
赏识基督的阔长；
满有基督的身量。
主阿，我愿被建造，
让你来显你荣耀。
今在此地就彰显，
将你照耀在人间。</p> |
|--|---|

840. The Church – Her Building

1. Freed from self and Adam's nature,
Lord, I would be built by Thee
With the saints into Thy temple,
Where Thy glory we shall see.
From peculiar traits deliver,
From my independent ways,
That a dwelling place for Thee, Lord,
We will be thru all our days.

2. By Thy life and by its flowing
I can grow and be transformed,
With the saints coordinated,
Buildd up, to Thee conformed;
Keep the order in the Body,
There to function in Thy will,
Ever serving, helping others,
All Thy purpose to fulfill.
3. In my knowledge and experience
I would not exalted be,
But submitting and accepting
Let the Body balance me;
Holding fast the Head, and growing
With His increase, in His way,
By the joints and bands supplying,
Knit together day by day.
4. By Thy Spirit daily strengthened
In the inner man with might,
I would know Thy love surpassing,
Know Thy breath and length and height;
Ever of Thy riches taking,
Unto all Thy fulness filled,
Ever growing into manhood,
That Thy Body Thou may build.
5. In God's house and in Thy Body
Buildd up I long to be,
That within this corporate vessel
All shall then Thy glory see;
That Thy Bride, the glorious city,
May appear upon the earth,
As a lampstand brightly beaming
To express to all Thy worth.